

内外の観光客にも照準

銀座ホテル開発花盛り

東京・銀座エリアでホテルの開発ラッシュが続く。東急ステイサービス（東京・渋谷）は今年、東銀座にビジネスホテルを開業した。三井不動産は9月に京橋でレストラン併設のホテルをオープンする。銀座は百貨店や高級ブランド店が立ち並び、国内外からの観光客が増加傾向にある。交通利便性の高い立地を生かしてビジネス客に限らず多様な客層を取り込む。



東急系 客室にレンジや洗濯機



7日開業した「東急ステイ銀座」は全191室、シングルルームやエグゼクティブダブルなど5種類の部屋を用意する。客室に電子レンジを置くほか、洗濯乾燥機やミニキッチンを導入する部屋もある。

羽田・成田の両空港に直結する東銀座駅の目の前の立地で、約半数が外国人客になると見込む。

フロントにはタブレット（多機能携帯端末）を配備し、テレビ電話で通訳につなげるようにする。英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語の5言語に対応する。三井不動産は9月1日、京橋の中央通り沿い

フロントにはタブレット（多機能携帯端末）を配備し、テレビ電話で通訳につなげるようにする。英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語の5言語に対応する。三井不動産は9月1日、京橋の中央通り沿い

三井不 全室2人以上OK



に「三井ガーデンホテル京橋」を開業する。レストランと一体化したロビーラウンジを設ける。全233室でダブルが7割、シングルが3割で全室2人以上で宿泊できる。ホテルは東京駅から徒歩5分の立地。銀座にも近づくだけでなく国内外の観光客需要も高いとみる。銀座周辺に系列ホテルが複数あり、14年末に東銀座にできた「ミレニアム 三井ガーデンホテル東京」は宿泊者の約8割が外国人客だ。

今後開発が相次ぐ。サンケイビルは2017年度をめどに、京橋に地上17階建て全205室予定のホテルを造る。森トラストは銀座の中央通り近くで19年度にホテルの開設を計画。銀座駅から徒歩2分の立地に約660平方メートルの土地を取得した。グループ会社で米マリオート系ホテルを運営するノウハワを生かす。銀座エリアでのホテル開発ラッシュの背景には東京を訪れる外国人旅行者の急増、20年五輪を見

観光庁がまとめた2015年宿泊旅行統計調査（速報値）によると、東京都内の宿泊施設の客室稼働率は14年比3.5ポイント上昇の82.3%だった。延べ宿泊者数は9.7%増の約5955万人で、うち外国人は約1778万人と34.7%増えた。

都内客室稼働率 3.5ポイント上昇82.3%

20年五輪開催都市として海外から注目度が高まり、宿泊需要を押し上げた。施設タイプ別の稼働率はビジネスホテルが86.3%、シティホテルが83.8%と高水準。カプセルホテルなどを含む簡易宿所は63.5%だった。外国人宿泊者の国・地域別の内訳は中国が22%で最多。台湾が12%、米

据えた都心部の再開発がある。銀座は観光や商業施設集積の中心地。東急ステイサービスの担当者「従来のビジネス利用だけでなく家族連れや外国人観光客など客層を広げたい」と狙いを話す。銀座周辺では3月末に免税店が入る商業施設の「東急プラザ銀座」が数寄屋橋交差点に開業。17年1月には森ビルやJ・フロントリテイリングが松坂屋跡地に大型商業施設を完成させる。施設に置ける予定で、銀座周辺のホテルの需要がさらに高まるとみられる。